



夏に流行する感染症

夏には高温多湿を好むウイルスが活発化し、夏特有の感染症が流行します。エンテロウイルス感染による「手足口病」や「ヘルパンギーナ」、アデノウイルス感染による「プール熱」が夏風邪として有名です。



<手足口病>

コクサッキーウイルスやエンテロウイルスが原因で、唾液（よだれ）や便を介して感染します。名前の通り、手のひらや足の裏、口の中に水ぶくれの発疹ができるのが特徴で、3～7日で治ります。発熱を伴うこともあります。

口の痛みが強く、水分もとれない場合は点滴が必要になることもありますが、通常は自然に治る病気なので全身状態が良ければ心配いりません。熱がなく、元気で、食欲もあれば幼稚園や保育園に行ってもかまいません。

まれに髄膜炎や心筋炎を合併することもありますので、注意が必要です。

<ヘルパンギーナ>

コクサッキーウイルスやエコーウイルスが原因で、唾液や便を介して感染します。症状は発熱とのどの奥の水ぶくれ、のどの痛みです。熱は1～4日、のどの水ぶくれは3～7日でおさまります。

治療は手足口病と同様、特別な治療はありませんが、のどの痛みで水分がとれない場合は、点滴が必要になることがあります。

熱が下がり、普段通りの食事がとれるようになってから幼稚園や保育園に行きましょう。登園する時は、医師の登園許可書が必要です。



<咽頭結膜熱（プール熱）>

咽頭結膜熱は、プール熱とも呼ばれ、アデノウイルスが原因です。

感染者のくしゃみや、咳で飛び散ったウイルスを吸い込んだり、感染者とタオルを共用したりして感染が広がります。プールでの感染もみられることから、プール熱とも言われていますが、必ずしもプールで感染するわけではありません。季節的には夏が多いのですが、年中見られる病気です。

症状は発熱、のどの痛み、目の充血、目やにで、3～5日持続します。

高熱が続きますが、特別な治療はなく、対症療法が中心となります。

主な症状が消え2日を経過するまで出席停止となっており、医師の登園許可書が必要です。



ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>